

〈ケース別〉 こんな相場観のお客様には このように提案しよう



ここでは、お客様がそれぞれ持っている相場観を踏まえ、どのようなアドバイスでどんな商品を提案できるか、トーク例を挙げながらケーススタディ形式で解説していきます。

執筆 ● 伊藤亮太
スキラー・ジャパン株式会社
ファイナンシャル・プランナー

case 1 日本の低金利は まだ続くと考え 預金以外で運用を 考え始めたお客様



「先進国の中で最後まで低金利が続くのは日本」と考える方も多いだろう。ヨーロッパではインフレ懸念が高まっていることもあり、本年中には利上げが行われると想定される。また、アメリカにおいても昨年11月に打ち出された量的緩和と第二弾（QE2）が予定どおり6月末に終了する見込みとなっており、アメリカの金融政策に大きな変化が見られる可能性が出てきた。

そのような中、2011年2月15日に行われた日本銀行の金融政策決定会合において、景気の総括判断をそれまでの「一服感がみられる」から「改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある」と昨年5月以来9カ月ぶりに引上

げが示された。これは、新興国や資源国が牽引する世界経済の回復の動きに伴い、日本においても輸出や生産が回復する見通しからだと見える。

ただし、金融政策については、デフレ脱却のため引き続き金融緩和維持が決定された。足元の景気に持ち直しの動きが見られるものの、現在行っている包括金融緩和策（国債買取り等）の効果を見極めたい、といったところが現状の日銀の考え方といえる。

欧米との金利差拡大から 為替差益が期待できる

このような状況と私たちの景気状況の実感から考えると、日・米・欧の中では日本の低金利状態

で金融商品によって利息を得ながら為替差益を狙う方法もよい。

ただし、注意しなければならぬ点がいくつかある。例えば、お客様が預金以外で運用をしたことがない場合、外貨建て商品による投資リスクについては、理解してもらえないまで詳細に説明する必要がある点である。具体的には、為替差損を被る可能性がある点、投資対象が外債などであればデフォルトになる恐れもある点などである。

お客様のリスク許容度についても、確認しておかなければならない。リスクを取りたくない方には、安全性の高い預貯金ややはり一番よいといった場合もあるだろう。提案の際には注意したい。

J-REITは 低金利化で分配金が増える

その他、日本の低金利をメリットとして捉えるのであれば、J-REIT（上場不動産投資信託）に投資するのもよいであろう。なぜかといえば、一般的に、J-REITは自己資金以外に借入金

もとに不動産運用を行うため、賃料が一定であれば、低金利下では返済利率が低くなり、分配金は多くなると考えられるからである。少額で分散投資という点を考えるのであれば、J-REITに投資を行う投資信託を提案するのも一つである。

J-REITは日本銀行の金融緩和策が後押しとなったこともあり、金融危機直後と比較すれば投資口価格も立ち直ってきている。とはいえ、年間の予想利回りが5%以上のものもまだ多くある。賃料相場の変動リスクやスポンサーの信用リスク、地価下落リスクなどについてしっかりと説明したうえで提案したい。

以上から、低金利下の日本において、運用の候補となる金融商品として外貨建て商品、J-REITを挙げた。図表には、それ以外の金融商品も含めて、日本の低金利を生かした運用候補となるものをいくつか掲載しておく。そのうえで、短期ではなく中期での運用を心掛けるように、お客様にはアドバイスしよう。

が今後もっとも長く続く想定できる。この場合、お客様が預金以外で運用したいと話した場合、どのような提案が可能であろうか。以下のお客様との会話から、一つの提案内容を示してみる。

お客様「金利が低くて、預金ではほとんど増えないね。日本の低金利は今後も他の国より長く続きそうだから、これを生かした運用方法がないか検討しているよ。」

担当者「余裕資金での運用でしょうか？」

お客様「そうですね。使う予定のない定期預金が1000万円あるから、このうちの200万円くらいで運用したいと考えている。今後も日本の低金利が続く、アメリカやヨーロッパで金利が上昇していくとなると有利な運用としてはどんな方法があるの？」

担当者「そうですね。通常は、金利を引き上げること、その国の通貨が高くなることです。仮にアメリカやヨーロッパが現状の金利を引き上げ、日本の金利はそのままと仮定しますと、円安ドル高もしくは円安ユーロ高になる可

●日本の低金利下（現状）で運用候補となる金融商品

- ①今後アメリカやヨーロッパが先に金利を引き上げるとした場合
→外貨建て金融商品
(外貨預金、外貨建てMMF、外債、外債に投資する投資信託など)
- ②日本の低金利が今後も続くとした場合
→J-REIT、J-REITに投資する投資信託
配当重視の日本株に投資する投資信託
日本株式（特に配当利回りの高い株式）
- ③いずれ日本の金利が引き上がるとした場合
→変動金利型預金、MMF